

資料編

○アンケート調査票

研究コミュニティの活性化につながる研究開発評価に関するアンケート

研究コミュニティの活性化につながる研究開発評価に関するアンケート

2010年1月21日

MRI 株式会社 三菱総合研究所

《調査の背景と目的》

このたび、株式会社三菱総合研究所では、文部科学省の委託により、研究コミュニティの活性化につながる研究開発評価に関するアンケート調査を行うことになりました。

この調査票は、科学研究費補助金及び科学技術振興調整費に係る評価委員などにお送りしております。国の貴重な財源をもとに行われる研究開発の質を高め、その成果を国民に還元するために研究開発評価は重要な役割を担っているものの、研究の質を重視する余り、研究の基盤となる人材育成、アウトリーチといった成果について、十分に認識されていないといわれています。本調査分析では、このような研究コミュニティが抱える課題を明らかにするとともに、評価活動を通じて研究コミュニティを活性化するための評価の方策について検討することを目的としています。

《アンケートの回答方法》

本アンケートは、郵送または電子メール返送のいずれかで回答してください。
いずれの方法も2月12日(金)までに回答ください。

【郵送によるご回答】

本調査票に直接記入の上、同封の返信用封筒にて返送ください。

【電子メールによるご回答】

本調査用ウェブサイト(<http://www.stu-mri.jp/rd5/>)から調査票ファイルをダウンロードして記入し、rd5@mri.co.jpまで返信ください。

【FAXによるご回答(締め切り直前の場合)】

締め切り直前の場合は、本調査票をFAXしていただいてもかまいません。

《回答頂いた情報の取り扱いについて》

ご回答いただいた内容につきましては、今回の調査目的に従って、統計的な分析を行うためのみに使用し、その他の目的で利用することはありません。分析でも組織・個人を特定して扱うこととはございませんので、ご協力をお願い致します。なお、回答いただいた方には、まとめ次第、調査結果をフィードバックいたします。

《アンケートの目的や内容に関するお問い合わせ先》

株式会社三菱総合研究所 科学・安全政策研究本部 担当：高谷徹、山本芳嗣
お問い合わせ用メールアドレス rd5@mri.co.jp
本調査用ウェブサイト(調査票ダウンロード、FAQなど) <http://www.stu-mri.jp/rd5/>
電話 (03) 3277-0555 FAX (03) 3277-0567

ご記入された方の連絡先をご記入ください

【重要】

※ご役職、ご氏名、ご連絡先(電話)、ご連絡先(電子メール)につきましては、個人情報となりますので、次ページ「個人情報のお取り扱いについて」の説明文を読み、了解、承諾された上でご記入ください。アンケート内容の確認、インタビュー調査、調査結果のフィードバックのみに利用します。

＜ご記入欄＞

大学・法人名			
ご所属(部署)			
ご役職*		ご氏名*	
ご連絡先(電話)*		ご連絡先(電子メール)*	

個人情報のお取り扱いについて

本アンケートは、文部科学省より「効果的・効率的な研究開発評価及び研究者等個人の業績に関する評価の先進事例に関する調査・分析」の業務委託を受けて三菱総合研究所が実施するもので、科学研究費補助金の第一段審査レビューアから分野別に全体で約 300 名無作為抽出してお送りしています。

ご回答者の個人情報のお取り扱いについては、下記のとおり適切に管理いたしますので、ご同意の上、アンケートにご回答下さい。

1. 個人情報の取扱いに関する 弊社の基本姿勢	三菱総合研究所は、2003 年 1 月 8 日にプライバシーマークの付与・認定を受けております。 ご回答者の個人情報は、弊社が定める「個人情報保護方針」に則り、適切な保護措置を講じ、厳重に管理いたします。
2. ご回答者の個人情報の利用 目的	ご回答者の個人情報は以下の目的のために利用させていただきます。下記以外の目的で個人情報を利用する場合は、改めて目的をお知らせし、同意を得るものといたします。 (1) アンケート内容の確認 (2) インタビュー調査 (3) 調査結果のフィードバック
3. ご回答者の個人情報の提供 提供：事業者が自ら保有する個人 情報を自社以外の者が利用できる ようにすることをいう。(委託 を除く)	個人情報の提供の予定はありません。
4. ご回答者の個人情報の委託 委託：事業者が利用目的達成に必 要な範囲内において、個人情報の 取扱いの全部または一部を自社 以外の者に預けることをいう。	ご回答者の個人情報は、外部委託事業者に個人情報を取扱う業務を委託する予定があります。 その際、必要な契約を締結し、弊社の従業員に対するのと同等の管理を行います。
5. ご回答者の個人情報の利用 終了後の措置(個人情報の保 管期間)	当該業務終了後は、三菱総合研究所が責任をもって廃棄いたします。
6. ご回答者が個人情報を弊社 に与えることの任意性及び当該 情報を与えなかった場合にご回 答者に生じる結果について	・お名前・ご連絡先をご記入いただいた場合、後日、アンケート回答内容について、ご質問させていただくことがございます。 ・お名前・ご連絡先を記入いただいた方には、アンケートの集計結果についてお知らせする場合があります。 ・ご回答された方が、個人名の記載を希望されない場合には、個人名の部分につきまして空欄でも構いません。その場合、アンケートの集計結果についてお知らせすることはできません。
7. 個人情報に関するご連絡先	(1) 個人情報保護管理者 株式会社三菱総合研究所 常務執行役員 渡井康之 (連絡先: 03-3270-9211、E-mail: privacy@mri.co.jp) (2) 苦情・相談窓口: 広報・IR 部 広報室 電話: 03-3277-4515 FAX: 03-3277-3490 E-mail: prd@mri.co.jp URL: http://www.mri.co.jp/kojin/

◆ 弊社の「個人情報保護方針」「個人情報のお取り扱いについて」をご覧になりたい方は
<http://www.mri.co.jp/TOP/privacy.html> をご覧下さい。
又、ご請求いただければお送り致します。

お問合せ番号: P020982-001-c

問1 専門分野

問1-1 あなたの専門分野について、もっともあてはまるもの 1 つに○をつけてください。科学研究費補助金「系・分野・分科・細目表」を参考として下さい。

- | | |
|----------|----------|
| 1. 総合領域 | 6. 化学 |
| 2. 複合新領域 | 7. 工学 |
| 3. 人文学 | 8. 農学 |
| 4. 社会科学 | 9. 生物学 |
| 5. 数物系科学 | 10. 医歯薬学 |

※科学研究費補助金「系・分野・分科・細目表」による

http://www.mext.go.jp/a_menu/shinkou/hojyo/_icsFiles/afiedfile/2009/09/02/1282801_1.pdf

問2 研究開発評価の実施経験

問2-1 研究プロジェクト(研究課題)の評価について、ご自身が過去3年間(2006年度～2008年度)に評価者を務めたご経験のあるものを、下記の資金源の種類別に、事前・中間・事後・追跡の担当された評価ステージに○をつけてください。

§ 回答者ご自身が何らかの評価対応作業を行ったものに限定してください。

§ 当該期間以前に実施・終了したプロジェクトの評価を、当該期間に実施した場合も含まれます。

研究開発プロジェクト等の 資金源の種類	評価を担当された評価ステージ**				
	事前 評価	中間 評価	事後 評価	追跡 評価	ステージはわからない が担当した事はある
科学研究費補助金	1	2	3	4	0
科学技術振興調整費	1	2	3	4	0
その他の 文部科学省関係資金	1	2	3	4	0
NEDO*の資金	1	2	3	4	0
その他の 経済産業省関係資金	1	2	3	4	0
厚生労働省関係資金	1	2	3	4	0
農林水産省関係資金	1	2	3	4	0
その他上記以外の資金	1	2	3	4	0

※ NEDO: 独立行政法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構

※※ 事前: プロジェクトの選定のための評価

中間: 期間が長いプロジェクトにおいてプロジェクトの途中で行う評価で、プロジェクトの実施方法の変更等に用いる。

事後: プロジェクトの終了時あるいは終了直前に実施する評価。

追跡: プロジェクト終了数年後に実施する、研究成果の効果等を評価する評価。

問2-2 過去3年間でご自身が評価者を務めた研究開発評価の回数プロジェクト評価、施策・プログラム評価、機関・組織の評価ごとに下記の表の該当欄におおよその数字でお答えください。

	事前	中間	事後	追跡**
プロジェクト(課題)評価				
施策・プログラム評価*				
大学・研究機関等の外部評価・第三者評価(機関・組織の評価)				

※研究開発の推進・支援に係り政府が実施する政策や施策の評価、競争的研究資金制度の制度自体の評価、複数の研究プロジェクトから構成される包括的な計画の評価などを指します。

問3 評価者として感じている問題意識

問3-1 評価者として、我が国の研究コミュニティ全体について、以下のような問題が生じているとお考えですか。

※ご所属の研究コミュニティに限定せず、我が国全体を想定して回答してください。

問題			そう思う	どちらかというと思う	どちらかというと思わない	そう思わない	わからない
若手研究者の人材育成	A	短期の成果を追求してしまうあまり、若手研究者等の人材育成への配慮が不十分になりがちである	1	2	3	4	0
アウトリーチ活動	B	成果の国民への還元や次世代の研究者を生むアウトリーチ活動が十分に評価されていない	1	2	3	4	0
異分野融合	C	異分野融合、組織・機関を超えた体制による研究に対する意識が低い	1	2	3	4	0
体制の柔軟性	D	公的な研究開発資金を用いた場合、契約等の問題により、研究段階に応じて人員を変更したり、学生が活躍したりする体制を柔軟に組みかえることが難しい	1	2	3	4	0
成果の波及	E	研究成果が他の研究へ波及するとした研究成果の波及性が十分評価されない	1	2	3	4	0
評価者の評価の知識	F	評価者自身が研究内容については知識があるものの、評価制度、評価の目的についての知識が不足している場合がある	1	2	3	4	0
評価結果のフィードバック	G	評価者のコメントを被評価者が以降の研究や申請に活かしていない	1	2	3	4	0
評価結果の活用	H	評価結果を国及び資金配分機関が以降の研究開発に活かしていない	1	2	3	4	0
研究者の評価(体制・結果)への納得性	I	被評価者である研究者にとっては、評価者に一方的に評価されるのみという意識があり、納得性が薄い	1	2	3	4	0
その他	J	(以下に具体的に)	1	2	3	4	0

その他

問3-2 問3-1のA～Jの中で、(問題が生じているとお考えか否かに係わらず)重視していくべき課題と考えるのは何ですか。いくつでも○をつけてください。

1. A	6. F
2. B	7. G
3. C	8. H
4. D	9. I
5. E	10. J

問4 評価を通じた研究コミュニティ活性化のための方策のアイデア

問4-1 問 3 の問題を解決するために、プロジェクト(課題)評価においてはどのような工夫が必要と考えますか。

工夫			必要	どちらかと言えれば必要	どちらかと言えれば不要	不要	わからない
若手研究者の人材育成	a	当該研究が次代を担う若手研究者の育成にいかに関与したかもより重視して評価する	1	2	3	4	0
アウトリーチ活動	b	成果の国民への還元や次世代の研究者を生むアウトリーチ活動をより重視して評価する	1	2	3	4	0
異分野融合	c	事前評価において、多様な研究者による研究実施体制をより重視して評価する	1	2	3	4	0
成果の波及	e	研究開発課題が別の研究開発課題の成果に結びつくような波及性をより重視して評価する	1	2	3	4	0
評価者の評価の知識	f	資金配分機関が評価者に対して研修を行ったり、評価者のためのガイドラインを整備したりすることによって、評価の考え方、適正な評価の方法、陥りやすい問題点、評価作業を能率的に行うためのポイント、評価能力の向上方法等を評価者に伝える	1	2	3	4	0
評価によるフィードバック	g	採択・不採択に係わらず、被評価者が以降の研究や申請に活かせるように配慮して評価者がコメントを行い、それを積極的にフィードバックする	1	2	3	4	0
評価結果の活用	h	研究開発課題(プロジェクト)の事後評価結果を次の研究開発に適切につなげていくためのシステムを整備する。	1	2	3	4	0
研究者の評価(体制・結果)への納得性	i	評価システム作りに評価実施主体、評価者、被評価者が一緒に協力したり、評価者候補群の推薦を一定の水準の被評価者が行う仕組みを作り、被評価者の納得性を高めるようにする	1	2	3	4	0
その他	j	(以下に具体的に)	1	2	3	4	0

その他

問4-2 問3 の問題を解決するために、(プロジェクト(課題)評価以外の)大学・研究機関等の外部評価・第三者による機関や組織の評価において、どのような工夫が必要と考えますか。

問4-3 問3 の問題を解決するために、(プロジェクト(課題)評価以外の)プログラム評価(※)において、どのような工夫が必要と考えますか。

※プログラムについて

政策から具体的な研究実施までの政策体系は概して、以下のように分けられる。

政策－施策－プログラム・制度(事務事業)－研究開発課題

プログラム・制度とは、施策を具現化するための個々の行政手段としての事務及び事業であり、行政活動の基礎的な単位となるもの。

国や資金配分機関において実施される提案型研究開発公募事業などの研究開発事業、競争的資金による研究開発制度が相当する(大規模なプロジェクトであり、資金配分や運営の意思決定が単独のプロセスで行われるものはここに含まれる。)

特に、科学技術政策においては、プログラムや制度は、社会、経済、国際政治、環境、文化などの様々な政策的課題(学術政策の課題も含む)と、最先端の研究動向とを結びつけるインターフェイスの役割を担う点に重要性がある。

その評価は、プログラム・制度の設定、研究開発の質の向上や運営改善、計画の見直し等を図るとともに、評価の重複を避け、評価を効率的に実施するためにも極めて重要である。

問5 評価者として必要となる知識

直近で担当されたプロジェクト(課題)評価を思い浮かべてお答えください。

問5-1 評価を行う上で、評価対象となる研究内容の他に、どのような知識や情報が評価者には必要だとお考えですか。

例えば、これから評価者になろうとする方に伝えるべき内容、伝える手段(※)はどのようなものでしょうか。

※評価者用のガイドラインを作成する、評価の専門家による研修(ネット上も含むスクーリング)を行う等

		必要性(それぞれ1つに○)					1または2の場合具体的に記入	
		必要	どちらかと言え ば必要	どちらかと言え ば不要	不要	わから ない	具体的内容	評価者に伝える手段 (※)
A	評価の考え方 (評価の趣旨、評価の位置づけ) (評価の段階(事前、中間、事後、追跡)、 事業(プロジェクト)の性格(基礎、応用、 事業化)によっても異なる目的)	1	2	3	4	0		
B	適正な評価の方法 (評価基準に従って評価する方法、被評価者を前向きにする評価の方法)	1	2	3	4	0		
C	評価で陥りやすい問題点	1	2	3	4	0		
D	評価作業を能率的に行うポイント	1	2	3	4	0		
E	評価能力を向上させる方法	1	2	3	4	0		
F	倫理(守秘義務、利益相反等)	1	2	3	4	0		
G	その他	1	2	3	4	0		

問6 研究コミュニティの活性化について

我が国の研究コミュニティは、学協会、同一分野の研究グループなどさまざまな個別の研究コミュニティが集まって形成されています。

以降では我が国全体ではなく、個別の研究コミュニティを想定して回答してください。

問6-1 我が国において今後、どのような研究コミュニティが、どのように活性化することが重要と考えられていますか。また、その理由は何ですか。

■研究コミュニティ(もっとも活性化することが重要と考えるもの1つに○)

1. 学内・同一法人内の同一分野研究者による研究グループ
2. 学内・同一法人内の異分野研究者による研究グループ(COE等による研究活動など)
3. 複数大学・公的研究機関による研究グループ(国内)
4. 複数大学・公的研究機関による研究グループ(国際)
5. 産学連携の研究グループ(共同研究、受託研究、国プロジェクトなど)
6. 企業同士の研究グループ
7. 学協会(専門分野を中心とした大学・企業・公的機関の専門家によるコミュニティ)
8. 企業主体の異分野・異業種の交流活動(セミナー、シンポジウム、委員会を実施する団体)・業界団体
9. その他(具体的に)

■活性化の内容(複数選択可)

1. コミュニティの構成人数(学会会員数など)を増加させる
2. 構成員の所属組織の多様性を増加させる
3. 研究プロジェクト数の増加させる
4. 予算を増加させる
5. 発表会・研究会を増加させる
6. 論文・特許等の成果を増加させる
7. 参加者の満足度を向上させる
8. 研究者ネットワーク・人脈を充実させる
9. 研究水準を向上させる
10. その他(具体的に)

■重要と考える理由(複数選択可)

1. 研究者は自身の専門性を深めることが必要であるため
2. 研究者は他分野・他組織の研究に関する相互理解をより進める必要があるため
3. 研究者にとってより広い人脈・ネットワークの形成が重要であるため
4. 研究者のモチベーションの向上をはかるため
5. 参加経験による研究者の成長を促すため
6. 異分野融合による新しい知識の創造を進めるには不可欠であるため
7. 単独では不可能な大規模な研究開発を実現するため
8. 科学技術の実用化を進めるため
9. その他(具体的に)

問6-2 問6-1のように活性化するためには、国、資金配分機関、大学、公的研究機関、企業、研究者個人等にどのようなことが必要とお考えですか。

研究開発評価への関わりによらず、自由に書いて下さい。

ご協力大変ありがとうございました。